

バルク乳由来黄色ブドウ球菌のバイオフィルム形成能調査と乳質向上対策の検討

：長野県飯田家保 大澤綾

1 細菌が自ら産生する高分子基質に包まれた集合体を
2 バイオフィルム（BF）と言う。BFは難治性牛乳房炎
3 の要因の一つとして注目されている。そこで管内酪農
4 家のバルク乳由来黄色ブドウ球菌（SA）のBF形成
5 能、搾乳機器の洗浄・殺菌への影響及び薬剤感受性を
6 調査した。供試した59株のSAは、変法コンゴローレッ
7 ドアガー法において全株がBF形成能を有するSA
8 （BFSA）だった。これらのBFSAは最小濃度の搾乳機
9 器用洗浄剤には4株中3株、殺菌剤には5分以上の感
10 作で全株が感受性を示した。また、各種薬剤の最小殺
11 菌濃度（MBC）は高値（ $> 1,024 \mu\text{g}/\text{m}\ell$ ）を示した。今
12 回の調査から、BFSAはバルク乳における存在率は高
13 いものの、一般的な衛生管理の徹底により搾乳機器か
14 らの排除は可能と考えられた。一方BFSAによる牛乳
15 房炎は、薬剤治療がより困難なことが示唆された。以
16 上の成績はより効果的な搾乳衛生指導の一助として有
17 意義と考えられた。